



新しき年に處する吾人の覺悟

特別
又6
8490
1802
早稲田大学図書館



明治五年一月廿四日
宇垣一成

新しき年に處する吾人の覺悟 宇垣一成
改曆の御慶萬里同風謹て僚友諸君に祝詞を
申上る

却説諺に昔一年の計は元旦に在りと申すことなれば
歳の初めに今後ニ處する覺悟、對策を定むるこ
とは御互に決して徒事ニあるまらざる極めて緊要
の事とあると信するに依り茲に謝状を呈し顧みす聊
か卑見を草して僚友諸君の清鑒に訴へ諸君と
共に大勇猛心を奮起して新しき年に處するの力

途を講し之に向つて邁進せんと試むる次第である
忌憚なく申せば昨年は吾人に採りては實は余り
難有からず面白からざる歳でありました、即ち一般
社會の方面に申せば、彼の思想界は先年來より
引續き不相變混沌と一縱談横議を逞ふし
動りすは享樂的利己的非國家的の「バトルス」
か益々繁殖增長し一時に跋扈跳梁せんとするの徴
を示しつ、^{あつた}國民一体の元氣は退嬰且銷沈
し、^{何となく}どうよかぬ様に改るだらう」と云ふ風に所謂世の中

の波浪の爲すか儘に翻弄せられ俗に申す無策却
上策とか大勢順應とか申す様な偷安姑息心
彌縫に傾きて居た感かする之に加ふるに生活上の
脅威は各方面の骨折りより拘はらす尚十分は緩
和せられすし依然と其安定を缺きつ、^{あつた}將
又狭き軍部の方面にのみ成就せよと彼の國家
最高政策の要求に従つて多軍^年海外に駐屯して
直接關接に國威國利の伸張に大に貢獻し
ありたりと信^{考へ}居りし軍隊も漸次に撤退せられ

今や余す所極めて少なく陸海の軍備は急轉直下
大に整理せらるゝ艦船兵員馬匹の減少、多數幹
部の退職、教育時日の短縮等となりお負けに
世間の有造無造の輩の中には有意か無意かは
知らざるも負の改善に依りて量の削減を補ふべき
軍部の整理に及撥して殆んど軍備の無用ともし
目すべき曲説を弄し、軍隊は國民自己の者たり
との觀念を以て缺きて恰も軍備部を一敵國視し之
故意に攻撃す非難の鋒先を向け建國以來帝國獨

特の精粹とあり誇りたりし所の國民の尚武心の
銷磨減退を以て歡迎鼓吹して而も欣欣然たる状態
にあつた觀かある、由來國家的精神と尚武心の鬱
敎たる雰圍氣内よ生長したるのみならず明治維新
後新陸軍の建設以來五十餘年間擴張に次ぐ
に充實を以て一而かも國家の進運は克く之を咀
嚼し之を消化して余りあるか如き黄金時代の好況
に依り其視聽の慣れ居る吾人の頭腦には昨春
來の一般社會及軍部内に於ける出來事は一種異

様なる衝動を興へて如何にも帝國の前程は
黄昏に近づきつつありはせぬか軍部の前途は蔭
薄くなりつゝありはせぬか時の感想か時に我か僚友
諸君の胸に起りし悲觀的ヒステリックの見
なりと一概に非議する譯には及ばぬと余は認め
居る

過ぎ去りし歳は斯の如く余り壯快なるものにあらず
し、茲に吾人の迎へたる新うき年に於ても國家及
國軍の前程は矢張り先年と同じ様なる筋道を經

續的ニ進行し黄昏より漸次暗黒の非境に沈み行
くべきや、夫と雖乾坤一轉して旭光燦たる多望なる黎
明を迎へ得べき可能性を有するや將又之に對する對策
を如何に採るべきや此等の點は年の初に際し須
く御互の大に潛思考慮を要する所であるを考へる
余は國家及國軍に取りての溟濛たる難關危局
は最早超越し通過し了るに盡くし居る、茲に迎へ
たる新年吾々の前途は大体に於て旭日東天に現
はれんとするの機運の正に熟してある所である、將又吾

人の努力は一層速かに之を可能ならしめ得るの要
機漸を追ふ充實してありと信する所の一人である
何を次へ而かふかP.P.

今や思慮に富める國民の一部所謂識者輩は一層
痛切に現状に覺醒して來て居る、即ち一般に是れ迄の
如き遣り口で行きとは何れの方面に於ても邦家の前
程は八方塞り益々暗黒あるのみである、偷安、姑息、彌
縫、享樂、利己的、非國家的の思潮の横溢を放任し
置く^たとは國家國民が自ら入るべき墮坑を掘りつゝあると

同然である、是非共此等の思潮を制馭善導し果
決奮闘、猛進、犠牲的、國家的の奉公氣分を大に
振興して行くことか喫緊事であると感して來た、其他
國民大体の氣風も従前に比し小は緩徐なかりもり
若干は眞面目味や緊張味を帯ひて來た^の方である、近
時國內到る所に志氣の振興、生活の緊肅、能率の
向上の絶叫せられ或は軍備の整理縮小により生ずる
缺陷は必ずや國民一般の尚武思想の振作と体育
殊に軍事豫備教育の普及に依りて補はれざるべから

さるの如き聲か逐潮高まりつつある事は果して何を意味
するか余は茲に確に機運の回轉革新の曙光を認
むるものがある加~~え~~す一時強壓を感じ居りし生活上の脅
威も何れかと中せは漸を追ふて多少は緩和し来り
つゝある傾向にある從つて本年に於ては經濟界の不振
及人事上御互一身の浮沈に關する不安なる一部の
問題の高残存しあるものせよ國家及國軍を大局より
大觀すれば何と申し之も大勢は最早革新振興の好機
運に向ふつある過去の趨勢を回轉すべき機會は吾人の

眼前に準備さへつゝある一波興りて萬波之に續かんとする
の傾勢勢にありと認むることか出来る、就中泰西諸邦に於
ては一層革新振興の形跡が顯著である、彼等は今日
に於ては過去に於ける所の妥協とか協調とか、国の先を
彌縫糊塗するとか云ふ如き、手温き、微温的遣り口に對
する及感及動と云ふ果決、猛進、男性的、犠牲的、國家的
の氣分を熱烈に歡迎し之共鳴し現に其精神氣合は
澎湃と云ふ張溢しつゝある景況は實に同覺まよきものあり
る、余所の視る目も何となく痛快の感を感じ起さしめて

居る、彼の敗残土耳其の再擡頭、英内閣の更迭、英
國總撰擧に於ける勝敗、伊國國粹黨の興起、
希臘革命、昨秋の英蘇等の如き中には多少粗暴
過激な類する行爲と非議するべき點なきに非あらず
り免れ角右に述ぶる諸事例の如きは過去の遺り口に
満足せず、^新革機運の作興を翹望しあり而かも漸
次機運は其方向に回轉しつつあるの消息を適確に語る
もの、^と謂つべきではないが、其他歐米各國とも大戦後
速かに國力を恢復するの必要に迫られ今や止むを得ず

一と常備軍の縮小^{削減}に勉めつつあるも他方に於て^は
めかりなく青少年の体育殊に軍備の豫備教育の
普及向上の力を傾注し以て^擧國皆兵の實を收
めて彼れに失ふたる所を此れより依りて補はんとなつ
ある事實の如きは現に吾人の眼前に日々展開せられ
つつある所の活画である、吾人が盲目であり鼓耳耳であらざ
る限りは國內に於ける機運の動靜如何に關せず此
等の泰西諸邦に起る新機運、活きたる大勢力の
激浪裡に安んじんと我無關焉と無關心たることは出来

まゝ況んや内に於ては既に思慮に富める一部の識者は
十分に覺醒し國民の大多數の間におりてり今この
儘では到底行けぬと將に深き夢送より醒めんとする
の氣運は熱し振れ居る今日に於て吾人の率先
大勇猛心を起し奮て將に轉變を醗釀せんつある
所の此の機運を捉へ之に衝動を與へるは現下の空
氣を一新し形勢を轉曲回し名實共に所謂新
しき年を迎へたりとの意義を實現すること敢て難
事とはあるまい、

國軍の首魁たり國民の精華たるべき約二万人に近き僚
友諸君より成れる本社借り團は精神界の支配の上に
於て實に一大勢力を有するにあらずや、此際克く致し相
互相戒めて世論の紛擾に迷はざれず、一身の浮沈に
制せられず、正義に殉する大勇猛心と、散る花を追は
ず日昇る月待つ底の緋たる襟度とを以て熱烈
に奮闘を繼續せば國家國軍を蔽へるか如く感せ
らるる蒙霧を一掃し更に美はしき旭光を現出せ
しめ得べく此間に處して假令女にも吾人にも逡巡退嬰

又曼如たるんか正に眼前に彷徨しつゝある機運を逸し
去らしむるの恐れなしとせず、余は時運變轉の機運微
に鑑み敢て僚友諸君か奮つて此快舉を遂げらるんこ
とを渴望するの余り茲に年頭に際し縷々卑見を草
したる次第である意余りあるも先筆の之に伴はざる
を遺憾とす、悲縮々々謝、

